

ソーシャル・キャピタルを用いた地域コミュニティと防災意識の現状分析

○ 中央大学 学生会員 井上 麻子
中央大学 正会員 佐藤 尚次
元中央大学 正会員 高橋 祐幸

1. はじめに

近年、地域コミュニティの希薄化によって地域防災力が低下したと考える人は増加している¹⁾。一方で、各地の公立小中学校では、平成12年に採択した品川区を皮切りに、「学校選択制」が導入された。このことにより、子どもを通じた地域のつながりが一層希薄になった可能性がある。

地域の状態や結びつきを表す指標として、「ソーシャル・キャピタル（以下 SC）」がある。SCとは、信頼、互酬性の規範、ネットワークからなる社会的仕組みであり、最近では、SCは防犯や健康の増進、失業率の抑制に役立つとして注目を集めている²⁾。SCが高いことは地域のつながりが深いことを表し、SCが高ければ、災害時には住民同士の救助活動や避難行動が円滑にできると考えられる。

本研究では、SCを地域のつながりを表現するための指標のひとつとみなし、公立小中学校区域程度の範囲の地域における信頼関係および互酬性をもつ人々のネットワークの疎密を表すと定義する。そして、地域特性ごとの防災意識と、防災意識に影響を与えているSCを調査することによって、地域特性に応じた防災政策および地域コミュニティ活性化に向けた提言を行うことを目的としている。

2. 研究の方法

本研究ではアンケートによって調査を行う。アンケートの内容は、防災意識に関する質問が6問、SCに関する質問が7問、個人特性に関する質問が5問という

構成である。

SCが地域性に基づくものであることを検証するため、内閣府が算出したSC総合指数²⁾と人口密度の関連を調査した。結果を図1に示す。人口過密地域ほどSCが低い傾向があることがわかる。そこで、対象地域を人口密度が高くSCの低い東京都と、人口密度が低くSCの高い山梨県とした。また、本研究では、子どもを通じた地域のつながりに着目していることから、小学校の保護者を調査対象とした。

調査対象のグループ分けを表1に示す。地域やライフスタイルの異なる4つの集団に対してアンケートを依頼した。調査グループ1は土木工学科を中心とした学生であり、防災に関する知識や意識が高い集団である。調査グループ2は東京都品川区内の小学校1校の保護者である。調査グループ3は都内に住む20歳代後半から30歳代の集団であり、一人暮らしをしている人が多い。調査グループ4は山梨県山梨市内の小学校1校の保護者集団である。

小学校の保護者である調査グループ2および調査グループ4の地域性は大きく異なる。両地域の概要⁴⁾を表2に示す。

表1 調査対象者

グループ名	サンプル数	調査対象
調査グループ1	47	学生(土木工学)
調査グループ2	253	東京都小学校保護者
調査グループ3	30	都内30歳代一人暮らし
調査グループ4	33	山梨県小学校保護者

表2 調査対象地域の概要

	対象地域	総人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上	人口密度 (1km ² 当たり)	高齢化率
調査グループ2	品川区	365,302	35,993	254,692	69,850	16,078	19.12%
調査グループ4	山梨市牧丘町	5,008	460	2,729	1,818	49	36.30%

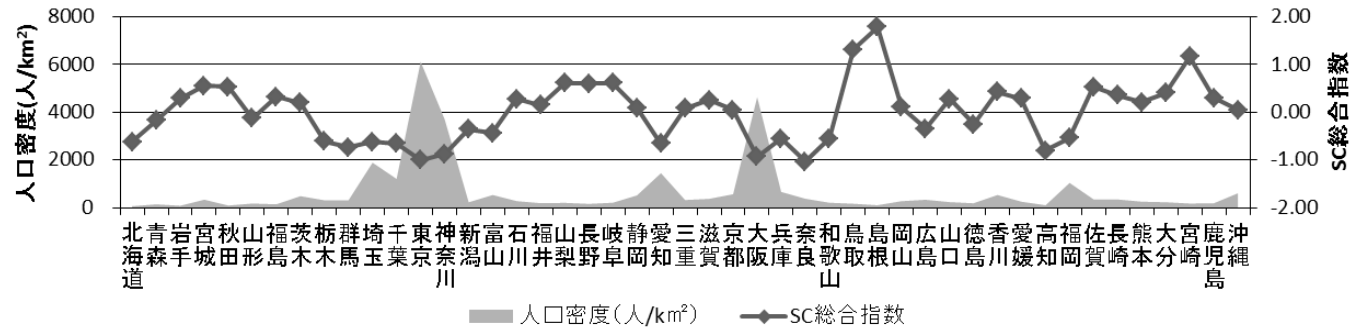


図1 都道府県別人口構成とSC総合指数の関係

キーワード : ソーシャル・キャピタル、地域コミュニティ、防災
連絡先 : 〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27 tel. 03-3817-1816

3. 結果と考察

3.1 防災意識に関する結果と考察

食糧等貯蓄の用意や、家具の転倒防止策等の防災対策を行っているか質問したところ、図2の結果となった。小学校の保護者である調査グループ2と調査グループ4では7割以上が防災対策をとっていると回答したが、一人暮らしが多い調査グループ3は防災対策を行っていないことがわかる。子どもの有無によって、防災に対する意識に大きく差があると考えられる。

3.2 SCに関する結果と考察

図3に、普段の生活で近隣住民とのつきあいの程度に関する結果を示す。近隣住民とのつきあいに関しては、グループにより異なる傾向を示した。都内で一人暮らしをしている30歳代の調査グループ3は、近隣住民と深いつきあいをしている人は一人もおらず、若い世代では地域のつながりの希薄化が顕著であるといえる。一方で、山梨県の調査グループ4は深いつきあいがある傾向がみられた。前節で述べたように、調査グループ4の地域は人口密度が高く、さらに高齢化が進んでいる地域であり、地域コミュニティが密であることが改めて確認できる。

図4に、近隣住民のつきあいの程度に関する質問と災害時ボランティア活動をしたかという質問をクロス集計した結果を示す。深いつきあいをしている人ほど助け合いの意思が強いことがわかる。

3.3 SCと防災意識の指標値の算出

調査結果をグループごとに定量的に比較し、防災意識とSCとの関連を調べるため、SCと防災意識の指標値を求める。SCに関する質問7問のうち4問を指標値算出項目とし、回答を-1から1に基準化した上で、グループごとの平均値を各グループのSC指標値とした。防災意識についても6問中3問を用いて同様に指標値を算出した。算出に用いた項目は表3の通りである。

分析結果を図5に示す。防災意識とSCの間には相関があることがわかる。調査グループ2と調査グループ4を比較すると、調査グループ4はSCがきわめて高いことがわかる。また、両親と同居の多い調査グループ1と一人暮らしの多い調査グループ3で比較すると、一人暮らし世帯はSC・防災意識が共に低くなっている。

4. おわりに

本研究では、ライフスタイルや地域特性の異なる4つの集団に対してアンケート調査を行い、それぞれ防災意識やSCが異なっているという知見が得られた。特に、都内で一人暮らしをしている若い世代は地域のつながりを持っていない現状が浮き彫りになった。

若い世代はSCが低い代わりに、インターネットを介したつながりがあると考えられる。今後は、ソーシャル・メディアの防災対策への可能性について調査する必要がある。さらに、東日本大震災がSCに与えた影響を調査し、地域特性に応じた防災対策の提言に向けて、地域特性の分析を行う。

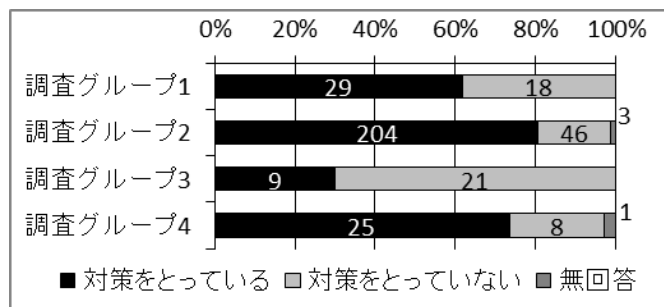


図2 防災対策に関する結果

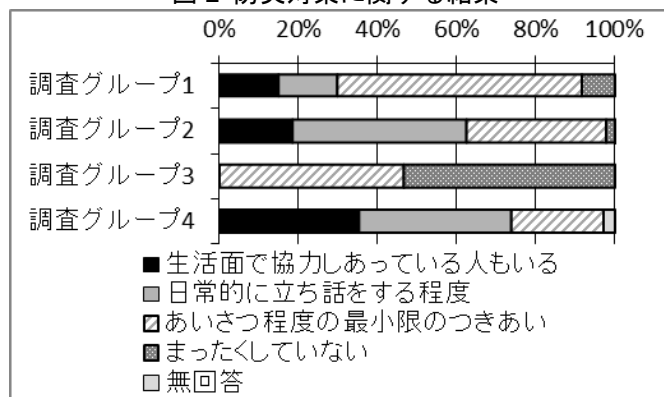


図3 近隣とのつきあいに関する結果

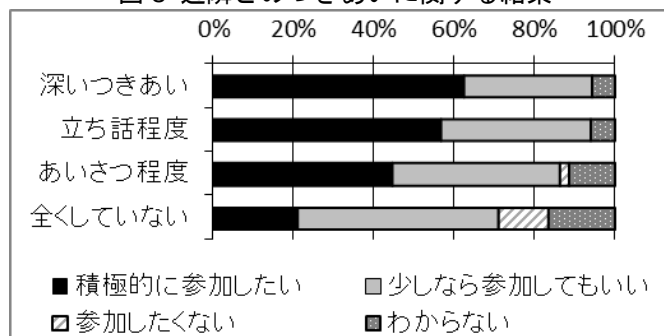


図4 近隣とのつきあいとボランティア意思の関連

表3 指標値算出項目

防災意識指標値算出項目
どのような防災対策をとっていますか
地域の防災訓練に参加したことがありますか
災害時の地域避難所と、避難経路を知っていますか
SC指標値算出項目
大きな災害が発生したとき、ボランティア活動に参加したいと思いますか
地域にどの程度の愛着がありますか
町内会など地縁的な活動に参加していますか
近隣の住民と日常的なおつきあいをしていますか

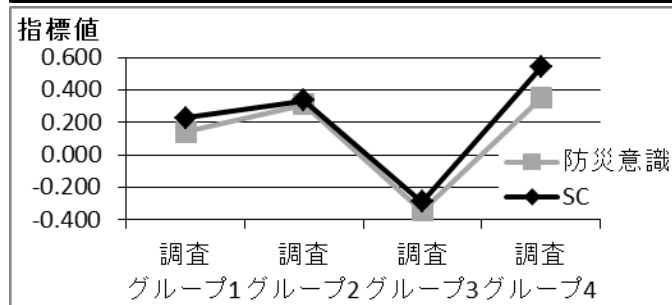


図5 防災意識指標値およびSC指標値

参考文献

- 1) 内閣府 国民生活白書「つながりが築く豊かな国民生活」2007.6
- 2) 内閣府 NPO「ソーシャル・キャピタル:豊かな人間関係を求めて」2003.6
- 3) 消防庁 『消防白書 平成21年版』
- 4) 総務省統計局 『平成22年国勢調査』